

自在R連続基礎

紹介

河川

暗渠・防火水槽

下水道

道路

擁壁

水路

その他

自在R連続基礎の特長

- 連続構造物としているため、衝突時の安定が確保されます。
- カーブ施工が容易に行えます。
- 地中埋設式の現場打ち連続基礎と自在R連続基礎ブロックを比較すると、型枠設置やコンクリート打設・養生に要する時間を短縮できます。

基準の改定



防護柵の設置基準



車両用防護柵標準仕様

平成16年3月に改訂

主な改定のポイント

- 景観形成に配慮した防護柵の整備
- 支柱式基礎の背面土量の算出方法
- 連続基礎の設計方法

施工例

○埋設使用



○置き式使用



参考延長一覧表

○埋設使用

衝突条件 衝突荷重	自在R連続基礎			
	現場打 連続基礎	S型 650×600	A型 630×450	B型 400×450
A種 55 kN 断面				
計算上の必要延長	10m	20m <small>(基礎延長は21mとなります)</small>	29m	
B種 C種 30 kN 断面				
計算上の必要延長	10m	10m <small>(基礎延長は11mとなります)</small>	15m	28m

※現場状況に合わせて計算・提案させていただきます。

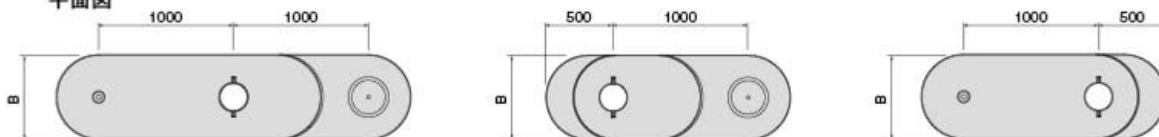
○置き式使用

衝突条件 衝突荷重	自在R連続基礎	
	A型 630×450	B型 400×450
A種 55 kN 断面		
計算上の必要延長	26m	
B種 C種 30 kN 断面		
計算上の必要延長	14m	B種33m C種34m

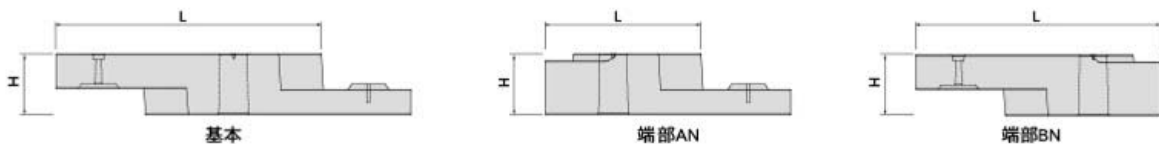
※現場状況に合わせて計算・提案させていただきます。

単体図

平面図



側面図



呼び名	参考質量 (kg)	価格 (円)	寸法 (mm)		
			B	h	H
S型	基本	1,690	650	600	1,975
	端部A	1,178			1,150
	端部B	1,241			1,825
A型	基本	1,202	630	450	1,965
	端部AN	820			1,150
	端部BN	883			1,815
B型	基本	773	400	450	1,975
	端部AN	547			1,275
	端部BN	566			1,700